

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI与野教室		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2024年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2024年 12月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童・職員で「楽しく過ごすこと」や「安心して過ごすこと」を軸としながら、運動療育を行っている。	児童の様々な思いを受け入れることや、保護者や関係機関と連携をして一人一人が安心して楽しく通える環境を作っている。また、職員一人一人が運動の際の言葉かけや活動の内容を工夫して、楽しく活動に参加ができるよう環境を整えている。	左記のことを引き続き継続していく。
2	運動療育を通して、体の使い方やSST（ソーシャルスキルトレーニング）、学校体育などの練習ができる。	粗大運動を通して体の使い方や学校体育の練習することや、活動中での話し合いを通してSST（ソーシャルスキルトレーニング）の練習をしている。学校体育の練習をする設備も整っており、まずは分割した動きを丁寧に行っていき、スモールステップで練習を重ねている。	左記のことを引き続き継続していく。また、内部・外部研修などを通してよりよい支援へとつなげていく。
3	モニターを活用した支援の見学や、支援後のフィードバックを行っている。	モニターを活用して支援の様子を視聴できるようにしている。支援終了後にはフィードバックの時間を設けており、支援の様子について保護者とお話している。	フィードバックでいただいた困りごとについて職員間で共有するとともに、家族支援へとつなげていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職による支援	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、心理的ケアを専門としている職員がいない。	人材の確保に向けた動きや、今後も職員が研修に参加し、ほかの職員に研修内容を報告する時間を設けることが必要。
2	専用の駐車場がない。	借りている物件のため、駐車場はなく設置もできない。	
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMIと野教室

公表日 令和 7年 2月 21日

利用児童数 26名 回収数 11名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	1				
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8	2		1	・目標が最初の段階の「楽しく通う」なので、まだよくわかりません。	「楽しく通う」ことを軸として、今後通っていく中で必要に応じて支援計画を更新・作成をしていきます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	2		2	・目標が最初の段階の「楽しく通う」なので、まだよくわかりません。	「楽しく通う」ことを軸として、今後通っていく中で必要に応じて支援計画を更新・作成をしていきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	1			・特にイベントが楽しみで、毎回参加をしたがっています。	ご意見ありがとうございます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1		6		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10		1			
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1	2	1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	11					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1	3	6	・父母の会や保護者会は存じ上げませんが、お迎えの際や見学の際に、ほかの保護者の方とお話をする機会はございます。	ご意見ありがとうございます。現在父母の会の活動等は行っておりません。今後必要に応じて開催を検討していきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9			2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11				・一度も嫌がることなく、楽しみに通っています。 ・毎週通所を楽しみにしております。	ご意見ありがとうございます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11				・先生は皆優しく丁寧に、親子共々満足して通所させていただいています。	ご意見ありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	TAKUMI与野教室					公表日	令和 7年 2月 21日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		法令を遵守したスペースを確保している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		法律上の配置人数は満たしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		教室内は段差がない構造になっている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日掃除と消毒を行っている。サービス提供時間内は窓の換気も行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		必要に応じて、クールダウンの際などに使える部屋を確保している。毎日のミーティングの中で使用状況を確認している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		毎日のミーティングで話し合い、記録している。情報共有や振り返りも行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		ミーティングの場で改善点を話し合っている。評価の悪い項目に関しては、改善点を図っていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日のミーティングで改善点の話し合いをしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		現在は実施していないが、今後必要に応じて実施する予定。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		定期的に外部・内部研修を実施している。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		イベント行事は、お知らせを教室内に掲示している。支援プログラムは、サービス提供記録やホワイトボードに記録と提示をしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		児童発達支援管理責任者が、指導員と子どもの様子、要望を確認しながら個別支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		面談時に、利用者、保護者の希望を確認したうえで職員間で話し合いをして検討している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援目標をミーティングの場で共有している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			教室間では子どもの状況の確認をしている。標準化されたアセスメントツールは存在しない為、今後作成を検討する。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		一人ひとりが、サービス計画に沿って基本活動（自立支援、日常生活充実のための活動など）を複数行っている。		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		個別支援計画の目標に沿ってプログラムの立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		職員一人一人のアイデアを取り入れて、ミーティングの場で話している。季節に沿ったイベント行事を開催している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		保護者や利用者の要望に沿って目標を作成し、適宜個別メニューや集団活動を取り入れている。小集団クラスを設けており、個別活動・集団活動を行っている。子どもの成長に応じて、児童発達支援管理責任者、指導員、保護者、子どもの意見を聞きながらクラス変更を行っている。年度替わりのクラス編成時にも、クラスの見極めを行い、保護者への説明を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎日、支援開始前に必ず打ち合わせの時間を確保している。課題を書き出し、支援方法や役割分担を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援終了後に、必ず打ち合わせの時間を確保している。1日の振り返りをし、気付いた点や改善点を洗い出している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		サービス提供記録への記入、独自の一日情報記録への記入をして検証している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行い、職員全体に情報を共有したうえでミーティングを行い、計画の見直しを行っている。定期的（5か月ごと）に保護者との面談を行っている。児童発達支援管理責任者、指導員でミーティングを行い、計画の見直しの必要性を判断している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			現在は相談支援事業所との電話でのやり取りを行っている。サービス担当者会議は行っていないため参加はしていないが、担当者から徴収があれば児童発達支援管理責任者が参加をする予定。将来的には指導員の参加も検討していきたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて、園・学校・支援センター等と情報共有をして、連携を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		現在は行っていないが、今後必要に応じて行っていく。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		現在は行っていないが、今後必要に応じて行っていく。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		他療育事業所との連携を図っている。		

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5			現在行っていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			フィードバック時や受け入れの際に、毎回お子様の様子を聞くようにしている。その後職員間で共有し、ミーティング時に話し合っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		5			ペアレントトレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、お子様への対応について保護者へのアドバイスをやっている。また、漫談時に相談を受けた場合も、指導員が回答するなどして支援を行っている。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			運営規定の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			面談等を通して、保護者からの課題点を確認して作成をしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			定期的（5か月ごと）に保護者との面談を行い、支援計画の説明をして同意をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			フィードバック時や面談で保護者からお子様に関する相談を受けた場合は丁寧にヒアリングをし、職員間で情報を共有、当事業で出来ることを話し合っている。児童発達支援管理責任者や指導員が悩みを聞き出すように声掛けをして助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときには、職員間でミーティングをし回答するように心掛けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5			父母の会は行っていないが、必要に応じて希望者には個別で情報交換などの連携を案内する対応を検討している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			速やかに対応するように心がけている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			SNS（インスタグラム等）で、日々の様子や活動内容を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			個人情報と思われる資料を破棄する際はシュレッダーをかけている。利用児童の個人情報は、鍵付きのキャビネットの中に保管している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			特性や能力に応じて、絵カードやイラスト、写真を用いて対応している。視覚優位なお子様に対しては、口頭での指示より動作化を行い、目で見てわかるような伝え方をしている。今後も必要に応じて検討していく予定。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4			現在は行っていない。今後必要に応じて検討していく予定。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			定期的に訓練を実施し、保護者に周知している。左記マニュアルに沿って職員に周知し、訓練にも取り組んでいる。今後も保護者に口頭や掲示などでしっかり伝えていく。	

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画（BCP）を策定している。年1回以上、地震・火災・不審者対応訓練を指導員と利用児童参加の上定期的に行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	いつでも確認ができるよう個人ファイルに資料があり、児童名簿に情報をまとめている。ご利用の契約の際に、保護者にフェイスシートを記入していただいている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		5		アレルギーについてフェイスシートに記入していただき、児童名簿にもまとめてある。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成している。避難訓練も定期的に行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		5	契約の際に保護者へ非常時の避難先を示した地図をお渡ししている。教室内にも同様の地図を掲示してある。非常持ち出し用のカバンの中に名簿を入れている。今後、緊急時連絡カードの作成を検討していく。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		些細なことでもヒヤリハットを作成し、共有している。終礼時のミーティングで話し合い、その都度記録をしている。毎日の振り返りで共有をして、対策を講じている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に研修を行い、何か気になることがあれば職員間で共有するようにしている。児童発達支援管理責任者が虐待防止の研修に参加し講師となり、講習をしたり虐待防止の資料を基に内部研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明をして了解を得ている。個別支援計画書にも記載をしてあり、同意を得ている。		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI与野教室		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2024年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数) 17名 (内1名19-29未記入)
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2024年 12月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童・職員で「楽しく過ごすこと」や「安心して過ごすこと」を軸としながら、運動療育を行っている。	児童の様々な思いを受け入れることや、保護者や関係機関と連携をして一人一人が安心して楽しく通える環境を作っている。また、職員一人一人が運動の際の言葉かけや活動の内容を工夫して、楽しく活動に参加ができるよう環境を整えている。	左記のことを引き続き継続していく。
2	運動療育を通して、体の使い方やSST（ソーシャルスキルトレーニング）、学校体育などの練習ができる。	粗大運動を通して体の使い方や学校体育の練習することや、活動中での話し合いを通してSST（ソーシャルスキルトレーニング）の練習をしている。学校体育の練習をする設備も整っており、まずは分割した動きを丁寧に行っていき、スモールステップで練習を重ねている。	左記のことを引き続き継続していく。また、内部・外部研修などを通してよりよい支援へとつなげていく。
3	モニターを活用した支援の見学や、支援後のフィードバックを行っている。	モニターを活用して支援の様子を視聴できるようにしている。支援終了後にはフィードバックの時間を設けており、支援の様子について保護者とお話している。	フィードバックでいただいた困りごとについて職員間で共有するとともに、家族支援へとつなげていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職による支援	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、心理的ケアを専門としている職員がいない。	人材の確保に向けた動きや、今後も職員が研修に参加し、ほかの職員に研修内容を報告する時間を設けることが必要。
2	専用の駐車場がない。	借りている物件のため、駐車場はなく設置もできない。	
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI与野教室

公表日 令和 7年 2月 21日

利用児童数

38名

回収数

17名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	1			・少人数制なので大丈夫かとは思いますが、もう少し広くてもよいですね。	ご意見ありがとうございます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16	1				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	2		1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	1		2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16	1				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14		1	2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	2				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	4		1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	1	8	7	・個別の運動療育なので承知しています。	ご理解いただきありがとうございます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15	1		1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	1				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	5	2	2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	16	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	2		1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15	1		1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	1	6	6	・個別の運動療育なので承知しています。	ご理解いただきありがとうございます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	4				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15		1			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9	2	1	4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	1		2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	1		2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14	1		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	3			・いつも楽しく通わせていただいております。	ありがとうございます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	1	1		・時間が短い。 ・お手数おかけしてばかりですが、先生方の工夫で親子共々満足して通わせていただいております。	ご意見ありがとうございます。 お子様の成長に合わせて、ご相談させていただけたらと考えております。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	TAKUMI与野教室				公表日	令和 7年 2月 21日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		法令を遵守したスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		法律上の配置人数は満たしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		教室内は段差がない構造になっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日掃除と消毒を行っている。サービス提供時間内は窓の換気も行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		必要に応じて、クールダウンの際などに使える部屋を確保している。毎日のミーティングの中で使用状況を確認している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		毎日のミーティングで話し合い、記録している。情報共有や振り返りも行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		ミーティングの場で改善点を話し合っている。評価の悪い項目に関しては、改善点を図っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日のミーティングで改善点の話し合いをしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		現在は実施していないが、今後必要に応じて実施する予定。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		定期的に外部・内部研修を実施している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		イベント行事は、お知らせを教室内に掲示している。支援プログラムは、サービス提供記録やホワイトボードに記録と提示をしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		児童発達支援管理責任者が、指導員と子どもの様子、要望を確認しながら個別支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		面談時に、利用者、保護者の希望を確認したうえで職員間で話し合いをして検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援目標をミーティングの場で共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			教室間では状況の確認をしている。アセスメントツールは存在しない為今後作成を検討する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		一人ひとりが、サービス計画に沿って基本活動（自立支援、日常生活充実のための活動など）を複数行っている。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		個別支援計画の目標に沿ってプログラムの立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		職員一人一人のアイデアを取り入れて、ミーティングの場で話している。季節に沿ったイベント行事を開催している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		保護者や利用者の要望に沿って目標を作成し、適宜個別メニューや集団活動を取り入れている。小集団クラスを設けており、個別活動・集団活動を行っている。子どもの成長に応じて、児童発達支援管理責任者、指導員、保護者、子どもの意見を聞きながらクラス変更を行っている。年度替わりのクラス編成時にも、クラスの見極めを行い、保護者への説明を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎日、支援開始前に必ず打ち合わせの時間を確保している。課題を書き出し、支援方法や役割分担を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	5		支援終了後に、必ず打ち合わせの時間を確保している。1日の振り返りをし、気付いた点や改善点を洗い出している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		サービス提供記録への記入、独自の日情報記録への記入をして検証している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行い、職員全体に情報を共有したうえでミーティングを行い、計画の見直しを行っている。定期的（5か月ごと）に保護者との面談を行っている。児童発達支援管理責任者、指導員でミーティングを行い、計画の見直しの必要性を判断している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		自立支援と日常生活の充実のための活動・創作活動・余暇の提供の3点に関しては支援の中に取り入れている。地域交流の機会の提供に関しては、現在行っていない。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		各クールの中で自己決定する機会を設けている。		
関係機関や保護者との	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			現在は相談支援事業所との電話でのやり取りを行っている。サービス担当者会議は行っていないため参加はしていないが、担当者から徴収があれば児童発達支援管理責任者が参加をする予定。将来的には指導員の参加も検討していきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて、園・学校・支援センター等と情報共有をして、連携を図っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		保護者との連携を取り、トラブルが起きないようにしている。学校のお便りを確認している。送迎がないため、保護者と毎回送迎時に情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			今後必要に応じて行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				該当者がいない。
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		区市町村が運営する公開研修・療育セミナーに各自参加し、その中で積極的に情報収集を行っている。		

連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	5		現在行っていない。今後必要に応じて検討していく。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	5		児童発達支援管理責任者が参加している。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		フィードバック時や受け入れの際に、毎回お子様の様子を聞くようにしている。その後職員間で共有し、ミーティング時に話し合っている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		ペアレントトレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、お子様への対応について保護者へのアドバイスをやっている。また、漫談時に相談を受けた場合も、指導員が回答するなどして支援を行っている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		運営規定の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明している。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		面談等を通して、保護者からの課題点を確認して作成をしている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		定期的(5か月ごと)に保護者との面談を行い、支援計画の説明をして同意をいただいている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		フィードバック時や面談で保護者からお子様に関する相談を受けた場合は丁寧にヒアリングをし、職員間で情報を共有、当事業で出来ることを話し合っている。児童発達支援管理責任者や指導員が悩みを聞き出すように声掛けをして助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときには、職員間でミーティングをし回答するように心掛けている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		父母の会は行っていないが、必要に応じて希望者には個別で情報交換などの連携を案内する対応を検討している。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		速やかに対応するように心がけている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		SNS(インスタグラム等)で、日々の様子や活動内容を発信している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報と思われる資料を破棄する際はシュレッダーをかけている。利用児童の個人情報は、鍵付きのキャビネットの中に保管している。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		特性や能力に応じて、絵カードやイラスト、写真を用いて対応している。視覚優位なお子様に対しては、口頭での指示より動作化を行い、目で見てわかるような伝え方をしている。今後必要に応じて検討していく予定。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		現在は行っていない。今後必要に応じて検討していく予定。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		定期的に訓練を実施し、保護者に周知している。左記マニュアルに沿って職員に周知し、訓練にも取り組んでいる。今後も保護者に口頭や掲示などでしっかり伝えていく。

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画（BCP）を策定している。年1回以上、地震・火災・不審者対応訓練を指導員と利用児童参加の上定期的に行っている。		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	いつでも確認ができるよう個人ファイルに資料があり、児童名簿に情報をまとめている。ご利用の契約の際に、保護者にフェイスシートを記入していただいている。		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			5		アレルギーについてフェイスシートに記入していただき、児童名簿にもまとめてある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			安全計画を作成している。避難訓練も定期的に行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。			5	契約の際に保護者へ非常時の避難先を示した地図をお渡ししている。教室内にも同様の地図を掲示してある。非常持ち出しのカバンの中に名簿を入れている。今後、緊急時連絡カードの作成を検討していく。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			些細なことでもヒヤリハットを作成し、共有している。終礼時のミーティングで話し合い、その都度記録をしている。毎日の振り返りで共有をして、対策を講じている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			定期的に研修を行い、何か気になることがあれば職員間で共有するようにしている。児童発達支援管理責任者が虐待防止の研修に参加し講師となり、講習をしたり虐待防止の資料を基に内部研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明をして了解を得ている。個別支援計画書にも記載をしてあり、同意を得ている。		